

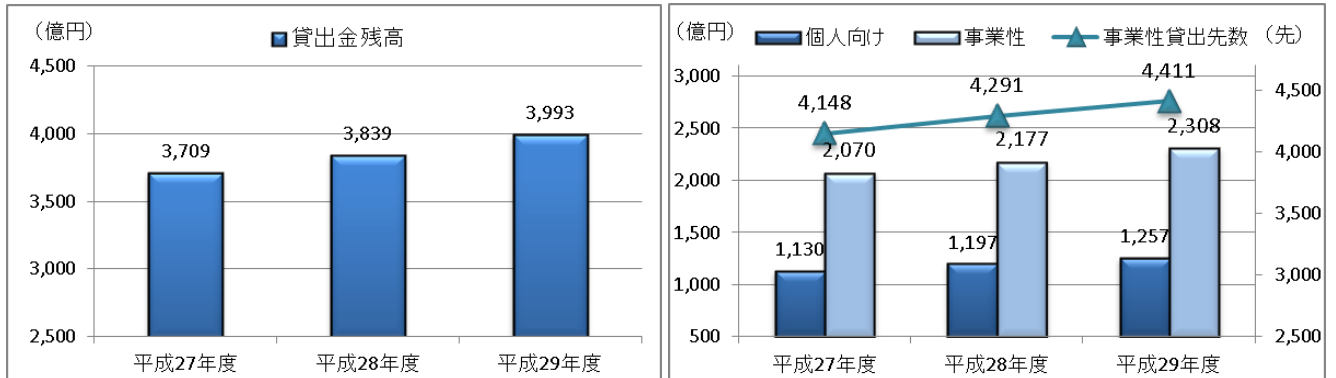
平成 29 年度 (30 年 3 月期) 決算概要

1. 営業活動の状況
2. 損益の状況
3. 健全性指標
4. 平成 30 年度の業績予想

1. 営業活動の状況

○貸出金

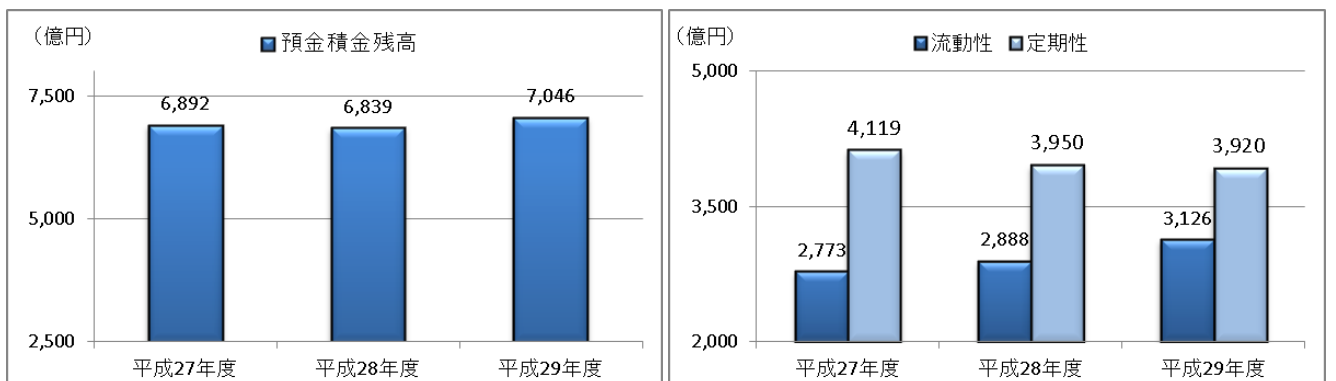
貸出金は、中小企業向け融資や住宅ローンを中心に個人向け融資が増加し、**期末残高は前期比 3.99%増加の 3,993 億円となり、5 期連続で増加**しました。事業性の貸出先数は、ビジネス情報のご提供や補助金の申請支援、呉創業支援ネットワーク等を通じて創業支援へ取組むなど、経営上の課題解決に繋がる提案活動に取組んだ結果、**年間 120 先増加**しました。



※ 事業性貸出には、地公体、金融機関向け貸出を含んでいません。

○預金積金

預金積金は、給与・年金振込や口座振替、インターネットバンキング契約の推進など、積極的な営業活動に取組んできたことにより、**期末残高は前期比 3.02%増加の 7,046 億円**となりました。



2. 損益の状況

○経常収益

経常収益は、前期比 5.60%減少の 109 億 63 百万円と、減収となりました。有価証券利息配当金をはじめとした資金運用収益が減少したことを主因に、減収となりました。

○経常費用

一方で、経常費用は、前期比 7.75%減少の 89 億 34 百万円となりました。継続的に経費削減に取り組んできたほか、有価証券損益が改善したことや、貸倒引当金が戻入に転じたことにより、減少となりました。

○経常利益、当期純利益

その結果、経常利益は前期比 5.21%増加の 20 億 29 百万円、当期純利益は、前期比 3.87%増加の 19 億 18 百万円となりました。事業計画に対しては、経常利益(計画比+90 百万円)、当期純利益(計画比+17 百万円)ともに達成しました。

○実質業務純益

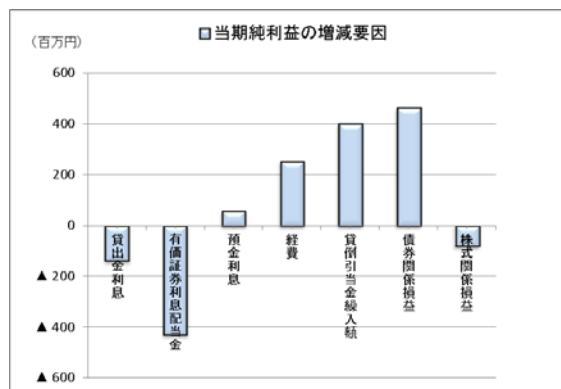
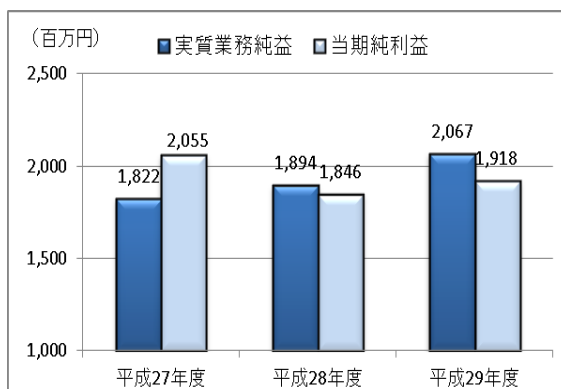
本業のもうけを示す実質業務純益は、経費削減や債券関係損益を中心としたその他業務収支の増益が寄与し、20 億 67 百万円と 4 期連続の増加(前期比+9.12%)となりました。

○資金利益

資金利益は、貸出金利息や有価証券利息配当金などが減少したことにより、87 億 25 百万円と減少(前期比▲5.58%)となりました。

(単位:百万円、%)

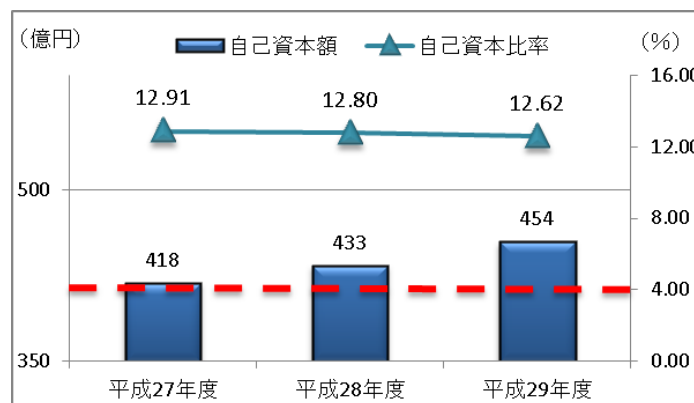
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	前期比	増減率
実質業務純益	1,822	1,894	2,067	172	9.12
資金利益	8,935	9,241	8,725	▲ 516	▲ 5.58
貸出金利息	7,095	6,943	6,803	▲ 139	▲ 2.00
有価証券利息配当金	2,261	2,416	1,986	▲ 430	▲ 17.80
預金利息	727	416	360	▲ 56	▲ 13.49
貸倒引当金繰入額(▲は戻入益)	▲ 88	355	▲ 43	▲ 399	-
経常収益	11,437	11,614	10,963	▲ 650	▲ 5.60
経常利益	2,104	1,928	2,029	100	5.21
当期純利益	2,055	1,846	1,918	71	3.87



3. 健全性指標

○自己資本比率

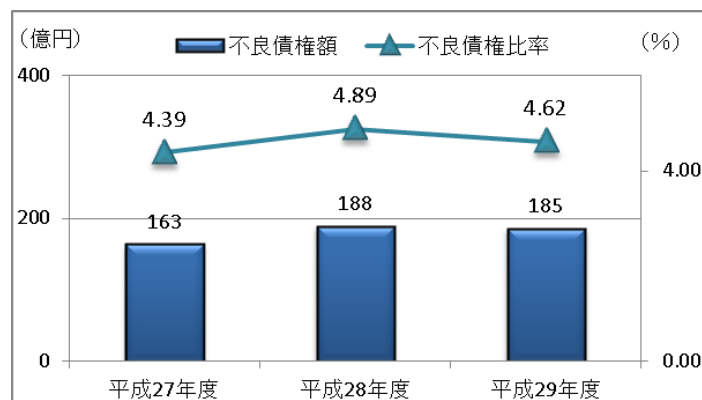
自己資本額は前期比 4.79%増加した一方、中小企業向け融資残高の増加等により、リスク・アセット等が 6.33%増加したため、自己資本比率は 12.62%となりました。国内業務のみを行う金融機関に必要とされる基準（4%）を大幅に上回っており、健全性に問題はありません。



○不良債権比率

事業再生先への支援に取り組んできた結果、不良債権額は前期比 1.78%減少し、不良債権比率は前期比▲0.27ポイントの 4.62%となりました。

なお、不良債権には、担保や貸倒引当金等により適切に保全が図られており、備えは万全です。



4. 平成30年度の業績予想

○平成30年度経営（業容）計画

平成30年度経営計画では、当金庫創立100周年（2025年9月）を見据え、「お客さまや地域との接点やリレーション（関係性）」を大切にした営業活動を展開し、地域金融機関としての役割を果たしていきたいと考えています。

その成果として、預金積金残高は前期比1.12%増加の7,126億円（2期連続の増加）、貸出金残高は前期比2.96%増加の4,112億円（6期連続の増加）を計画しています。

○経常収益

経常収益は、前期比3.02%減少の106億31百万円と予想します。貸出金利息は10年ぶりの増加を見込むものの、有価証券利息配当金等の減収、債券売却益の減少などにより、経常収益は減収を見込んでいます。

○経常費用

経常費用については、将来の貸倒に備えて引当金を積み増す見込みであることから、前期比4.66%増加の93億50百万円と予想します。

○経常利益、当期純利益

その結果、経常利益は、前期比36.89%減少の12億80百万円、当期純利益は、前期比37.20%減少の12億4百万円と、減益を見込んでいます。

○実質業務純益

また、本業のもうけを示す実質業務純益は、18億31百万円と前期比▲11.42%の減益を見込んでいます。

（単位：百万円、%）

	平成29年度	平成30年度計画	前期比	増減率
実質業務純益	2,067	1,831	▲ 236	▲ 11.42
資金利益	8,725	8,571	▲ 153	▲ 1.76
貸出金利息	6,803	6,811	7	0.10
有価証券利息配当金	1,986	1,855	▲ 131	▲ 6.61
預金利息	360	364	3	1.08
役務取引等利益	167	255	87	52.19
貸倒引当金繰入額	▲ 43	600	643	-
経常収益	10,963	10,631	▲ 331	▲ 3.02
経常利益	2,029	1,280	▲ 748	▲ 36.89
当期純利益	1,918	1,204	▲ 713	▲ 37.20

以 上